

平成 28 年度奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業

帯解地域歴史的建造物調査報告書

今市・下山・山村・窪之庄・田中・池田

平成 29 年 3 月

一般社団法人 奈良県建築士会

協力 奈良市教育委員会

目次

序

事業の概要	1～2
調査地域の概要	3～4
地域全体調査結果	5～7
各地域調査結果	
今市一丁目・帯解本町	8～13
今市二丁目・今市三丁目	14～19
下山	20～25
山村	26～31
窪之庄	32～37
田中	38～43
池田	44～49
報告会の記録	50

序

(一社)奈良県建築士会では平成 22 年以来育成してきた地域文化財建造物専門家(ヘリテージマネージャー)と奈良市文化財課の協働により、帯解地域(今市一丁目、帯解本町、今市二丁目、今市三丁目、下山、山村、窪之庄、田中、池田)の歴史的建造物の掘り起こしのための調査を、延べ 51 名で 571 件において実施しました。平成 26 年の富雄地域 5 地区(石木、大和田、中、三碓、二名)、27 年度の平城地域 5 地区(押熊、中山、山陵、秋篠、歌姫)に続く 3 回目の調査となりました。

今年度の帯解地域は奈良市の南東部に位置し、奈良時代から歴史に登場し、万葉集にも詠われている歴史のある地域で、古くからの街道沿いに町家風の敷地割りや建物が建つ地区と、大和棟の民家が残り、大和の農村風景が美しい形で現存している地区に分かれる特徴を持っています。

調査後、結果を報告書にまとめ、地域及び建物の特徴や価値を伝え、地域住民の方々と意見交換も行う報告会を実施しました。参加者全員が地域を再認識する良い機会となりました。

時代と共に建て替えが進む中で少しずつ歴史的建造物がなくなり景観の変化に繋がっている現実を調査で実感しました。しかし、地域の歴史、立地、周辺の変化などの条件により現況は異なりますが、先人たちが築き上げた歴史的建物や街並みを「地域文化財」と位置づけ、守り続けていくことの大切さや、改築を行い、新しい建物に生まれ変わったとしても、地域の建築的特徴を残した伝統的な意匠・材料・工法を町という面的なスケールで、後世へと伝承していく意義を調査や報告会で確認しあえたのではないかと思います。

この調査を通して、歴史的文化的建築的背景を理解したヘリテージマネージャーが、専門家としての役割を地域や個人に対して果たす責任は大きいと改めて自覚し、より一層の努力をしなければいけないと思います。

最後に、調査にご理解ご協力をいただいた住民のみなさまや、ご支援・ご指導いただいた奈良市文化財課専門職員の方々に感謝の意を表すところです。

一般社団法人 奈良県建築士会
会長 瀧上 徳光

報告書刊行に寄せて

奈良市では、様々な調査の成果を基に、文化財建造物の保護を進めています。どこに、どんなものが、どれくらいあるかを把握することが、文化財保護の基礎となります。

しかし、市内にはたくさんの歴史的建造物があるため、未調査のものも多く残っています。さらに、近年では土木構造物や産業遺産、戦後建築等も文化財として扱われるようになるなど、保護の対象も拡大しています。

また、文化財建造物の保護への関心も高まっています。各地の建築士会を中心に、地域の歴史的建造物の保護を担う人材（ヘリテージマネージャー）の育成が進められていることも、関心の高まりを示しています。奈良県建築士会も、平成 22 年度から講習会を開催しています。

こうした状況をふまえ、この度、奈良県建築士会と奈良市教育委員会との協働により、ヘリテージマネージャーの皆さんを調査員として、帯解地域の歴史的建造物の分布調査を行いました。調査の結果、本報告書に示すとおり分布状況が明らかとなり、大きな成果をあげることができました。お世話になった皆様に感謝申し上げます。

本書を通じて、多くの皆様に帯解地域の歴史的建造物の価値を再確認していただき、調査成果を広く活用いただきたいと思います。今回の調査が、地域の皆様、建築士会、学識経験者、行政等、様々な関係者がそれぞれの立場で文化財の保護に関わっていくきっかけになれば幸いです。

奈良市教育委員会 教育長 中室雄俊

事業の概要

[事業目的]

調査地の帯解地域は、奈良市南東部に位置し、上街道と県道51号線（以下、天理環状線）が交差する交通の要衝で、宿場が形成されていた。また、東西に農地が広がる。現在は、農業振興地域及び市街化調整区域内であり、比較的昔からの町並みを残している地域である。しかし、民家等の歴史的建造物の分布調査はほとんど行われておらず、地域特有の歴史的建造物の把握はあまり進んでいない状況である。

そこで、奈良県建築士会では、平成22年度から4年間で育成した地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）の活動の一環として、奈良市教育委員会と協働し、帯解地域の歴史的建造物の調査を行った。地域文化財の把握を促進し、その成果や分布状況を地域住民に報告、発信することで、地域文化財の認識が進み、まちづくりや地域の活性化に繋がる効果を期待し事業を実施した。

[期 間] 平成28年6月～平成29年3月

奈良市教育委員会と協働協定書を交わし、役割及び責任を分担し、調査票や調査内容の検討を重ね現地の下見を行った後、調査を実施。

[場 所] 奈良県奈良市帯解地域（今市一丁目、帯解本町、今市二丁目、今市三丁目、下山、山村、窪之庄、田中、池田）

[調査対象] 近世近代の歴史的建造物（主に住宅を対象とし、社寺建築は除く）

[調査員] 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）、奈良市文化財課職員

[調査方法]

- ・各調査地区の自治会長に協力を依頼し、地域住民へ調査を周知。
- ・昭和36年(1961)と現在の空中写真を比較するなどして調査範囲を絞り込み。
- ・調査当日、かつての集落や暮らしの様子について、地域住民から事前にヒアリング。
- ・概ね3名一組で外観からの目視により調査票へ記入。また、外観の写真を撮影。
- ・主屋、附属屋とも歴史的建造物（築50年以上）、中間的なもの（新しいが伝統的な意匠のもの）、非歴史的建造物に分類し、屋根形式、構造等を記入。加えて、規模、意匠、改造の有無などの特徴も記入。
- ・調査後、調査票を完成させ分布図を作成。

[情報発信] 調査終了後、主に地域住民に調査成果を報告する報告会を開催し、地域の特徴を報告。

[報告書作成] 調査の内容をまとめた報告書を作成し、今後の地域の資料とする。

* 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）について *

奈良県内には奈良時代や鎌倉時代に遡る全国的にも貴重な文化財建造物とともに、近世、近代に建築された歴史的、文化的価値のある建造物も数多く残る。そこで、奈良県建築士会では、地域の歴史的建造物の価値を認識し、その工法や技術等を習得し、これらの建造物を後世に継承できる人材の育成を目指して、文化財専門家育成の講習会を平成22年度から25年度の4年間行った。

講義と演習を含め60時間の講習を行い4年間で103人が修了。地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）として県内各地の歴史的建造物の保全・活用に中心的な役割を担い、まちづくりなどにも加わり地域の活性化に寄与する人材としての活動を進めていく。

平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業
 奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業（帯解地域）

[実施内容]

調査地域	調査日	調査件数	参加人数
山村・窪之庄	平成28年7月30日(土)	108件	建築士会 10名 奈良市 2名
池田・田中	8月28日(日)	119件	建築士会 10名 奈良市 2名
下山・今市一丁目 帯解本町	9月10日(土)	164件	建築士会 13名 奈良市 2名
今市二丁目 今市三丁目	9月22日(木)	160件	建築士会 10名 奈良市 2名

[調査の様子]



調査地域の概要

[位置と地理] 帯解地域は、奈良市の南東部に位置し、北西は奈良市明治地域、北東は奈良市東市地域、東は大和高原西辺の奈良市精華地域、南は天理市、西は大和郡山市に接し、東西に細長く南北に短い。東部山地より続いて次第に低くなった中央台地は、奈良盆地東部台地区にあたる部分で、山村台地と、さらに低く北西にのびる今市台地の2つに分けられる。中央台地以外の北部、西部及び南部低地は田園がひらけ、奈良盆地の一部を成している。河川に恵まれず、台地西部のガマ池、南部の廣大寺池等、多くの貯め池が灌漑用として水田を潤してきた。なお、現在は吉野川分水により、その役目は低くなっている。

廣大寺池は、池田町東方にある大池で、「古事記」「日本書紀」に和珥池と記載され、推古天皇時代に築かれたとも伝えられている。また、弘法大師が稗田（現大和郡山市）の農民を救うために築造されたとも伝えられている。現在も、水利権は稗田に優先権がある。かつて池底から弥生式土器・石鍬などが出土した。

[社寺] 今市町の上街道に面して帯解寺がある。本尊の木造地藏菩薩半跏像（鎌倉）は国重要文化財である。寺伝によると、文徳天皇の皇后染殿が懐胎の時、当寺に祈って清和天皇を安産したと言われ、今なお、安産祈願の人が絶えない。美智子皇后陛下に腹帯を献納したことで有名である。「帯解」の地名は、帯解寺を由来とする説と、地名研究家の池田末則氏の「オビトケ」が「オビトウゲ」から転じた、地形を由来する説がある。

帯解本町の南に龍象寺があり、俗に「奥の院」という地藏堂がある。毎年7月23、24日の地藏会式には、北の帯解寺（地藏院）と南の龍象寺（奥の院）へ参拝する人々で賑わっていた。

山村町の東方の山間に圓照寺がある。俗に山村御殿とも呼ばれ、後水尾天皇の第一皇女梅宮文智皇女が尼となり、明暦2年(1656)11月に京都から奈良市八島町へ移り、さらに寛永9年(1669)に現在の地へ移された。如意輪観音、父君の後水尾天皇御肖像を圓通殿に安置し、日夜、尼僧としての修道に励まれた寺である。俗世から離れた閑静なこの寺は、修道にふさわしい寺で、一般の拝観は禁じられている。

帯解地域には、今市二丁目に春日神社、帯解本町に八坂神社、山町に八坂神社、山村町に御霊神社、窪之庄町に八坂神社、田中町に八王子神社、池田町に熊野神社が祀られている。

[歴史] 帯解地域は、奈良時代から歴史に登場し、万葉集にも詠われている。山村町には、ベンショ塚、圓照寺墓山古墳群、狐塚古墳、五つ塚古墳群などの古墳が残されている。五つ塚古墳の南西約300mの尾根からは、昭和35年(1960)に銅鐸が1つ出土している。帯解地域には、窪之庄・田中町・山町等にも6、7世紀の古墳が残されている。欽明天皇元年(540)に百濟から渡来した巨知部氏が居住したとされ、また山村町には他に聖徳太子の弟、久米皇子の居住の跡と伝わる場所もある。

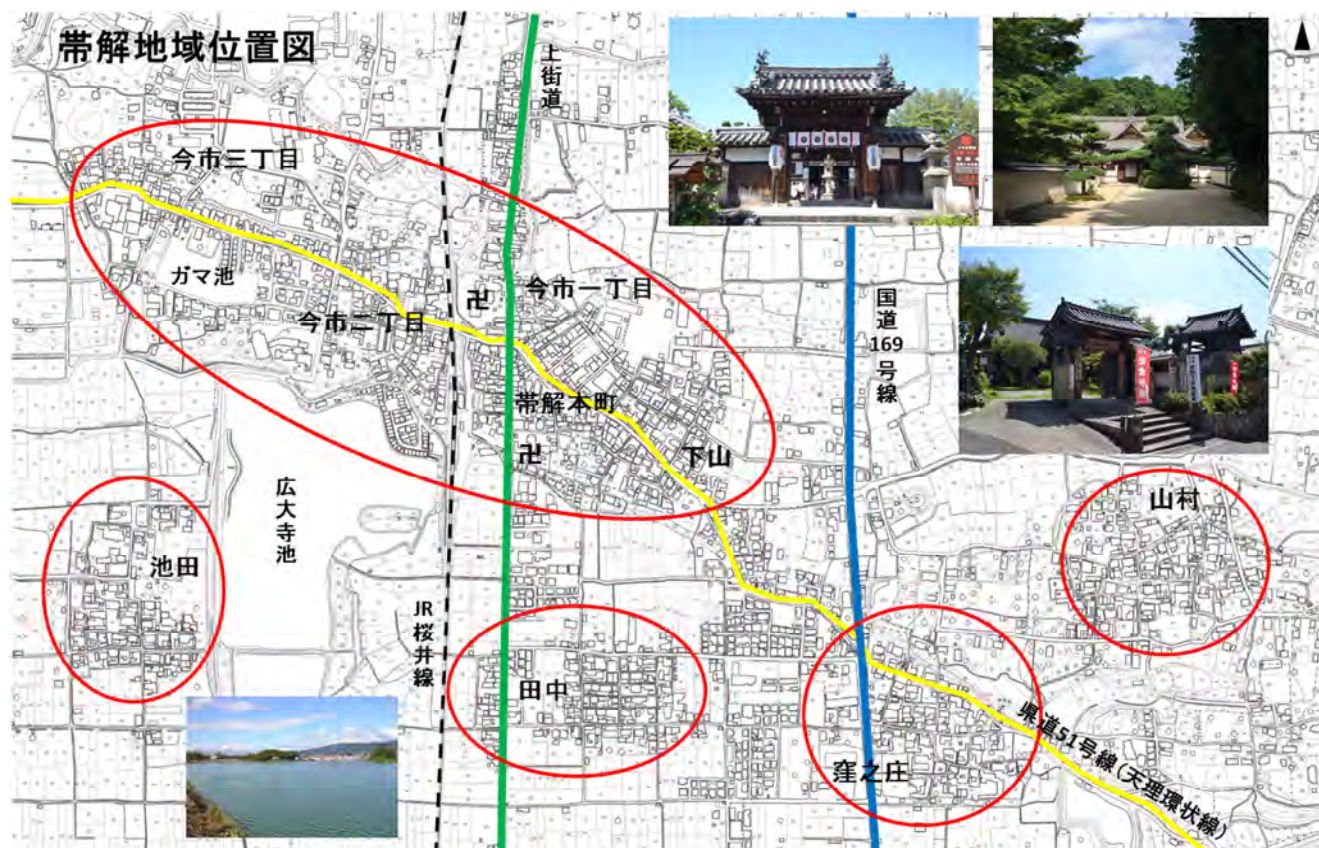
奈良時代に大和平野を南北に通じる道路として上津道、中津道、下津道があった。平安時代、奈良詣や長谷寺詣が盛んとなった。東山間との交通の要路として発展し、大和平野を旅する人々の休息所・宿場となった。窪之庄城跡は、窪之庄の環濠集落北方丘陵上にあり、現在も空堀が残っている。窪城氏は応仁の乱以後、古市氏の傘下として活躍した。

明治以前は、今市村、田中村、窪之庄村、山村、柴屋村、池田村の6ヵ村に分かれ、興福寺領や柳生藩領・幕府領等となっていた。明治22年(1889)の町村制実施の際、この6ヵ村が合併し帯解村となった。

同22年、奈良鉄道株式会社が京都－奈良間、奈良－桜井間の鉄道敷設を出願し、同30年に京終－桜井間開通した。翌31年には、奈良－京終間が開通し、上街道に沿って桜井線の列車が走ることになり、帯解駅が設置され、周辺集落は発展した。昭和2年(1927)には、帯解町となる。さらに、同30年(1955)に明治村、辰市村、東市村、五ヶ谷村と共に奈良市に合併し、添上郡帯解町からそれぞれの大字が町名となっている。戦後の自動車の普及により、上街道では幅員が狭いため、昭和40年(1965)に山の辺の道と上街道の間に、奈良と桜井を結ぶ県道(現 国道169号線)が完成している。これにより、上街道は幹線道路としての役割を終え、古道といわれるようになった。

[産業] 帯解地域では、長く農業が主な産業であった。江戸中期には、米麦中心の農業経営を行いながら、綿花、茶の栽培もおこなわれていた。明治からは養蚕も行われ、戦後は、米と筍で生活ができるという時代もあったが、現在は兼業農家が多い。専業農家では、主に野菜や果樹の栽培を行っている。窪之庄町においては、茶や養蚕では生計が立たなくなり、植木を植え副業としていたところ、現在は、植木が本業となった農家もある。しかし、植木は手入れに手間がかかるため、最近では敬遠されるようになり、需要は少なくなったという。

帯解は農業主体が地域であるが、今市町や柴屋町は、帯解寺と龍象寺の参拝客や街道を往来する人々で賑わう町として発展した。上街道沿いの宿屋（吉野屋・橘屋）、茶店（柿ノ木茶屋）等が栄えた。今市カブの千枚漬け黄金蕪が旅人によく売れたという。近年まで、市場町として賑わい、多くの商店が軒を連ねていた。主に日用品が売られ、近隣の旧町村からの買い物客が多く訪れたが、現在はほとんどの商店が閉店した状況にある。



地域全体調査結果

調査表

平成28年度 奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業調査票 帯解地区

調査No.	調査者	通しNo.	調査日
物件名			平成 28 年 月 日
		所在地	

敷地前面	<input type="checkbox"/> 門 → 長屋門・和風・洋風・その他 () → 附属屋の項 <input type="checkbox"/> 塀 → 土塀・板塀・真壁塀・OB塀(和風)・生垣・その他 ()		
形態	<input type="checkbox"/> 住宅 → 町家・農家・和風・洋風・その他 () <input type="checkbox"/> 住宅以外 → 和風・洋風・その他 () 用途 ()		
年代	昭和30年代以前 (→歴史的建造物)		昭和40年代以後
	<input type="checkbox"/> 江戸 <input type="checkbox"/> 明治 <input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 戦前 <input type="checkbox"/> 戦後		<input type="checkbox"/> 伝統的な意匠のもの等 <input type="checkbox"/> その他
構造	<input type="checkbox"/> 草葺 <input type="checkbox"/> 煙出 <input type="checkbox"/> 虫箱窓 <input type="checkbox"/> 出桁 <input type="checkbox"/> 木二期 <input type="checkbox"/> 木たかくき		
階数	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他 ()		
屋根	<input type="checkbox"/> 平入 <input type="checkbox"/> 切妻 <input type="checkbox"/> 入母屋 <input type="checkbox"/> 寄棟 <input type="checkbox"/> 片側切妻 <input type="checkbox"/> 片側入母屋 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 妻入 (大和棟・大和棟以外の落付)		
	<input type="checkbox"/> 草葺 (金属板葺・スレート) <input type="checkbox"/> 瓦葺 <input type="checkbox"/> 金属板葺 <input type="checkbox"/> その他 (本瓦・棧瓦・鉄板・銅板)		
強出玄関	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → 切妻妻入・入母屋妻入・その他 ()		
その他	<input type="checkbox"/> 袖即建 <input type="checkbox"/> 平格子 <input type="checkbox"/> 出格子 <input type="checkbox"/> 木格子 <input type="checkbox"/> その他 ()		
附属屋	表門(門)	凡例	
	離れ(ハ)	R 歴史的建造物 C 中間的なもの Z その他() K 切妻 I 入母屋 KI 片側切妻片側入母屋 Y 寄棟 Z その他()	
備考	① 門 + ナ。 R KW。 八双金具あり。 (適宜特種を記載) ② ソ1 (便所か)。 CZ (片流) W。 Z その他()		

敷地前面

門、塀、石垣等の有無を確認。

主たる建物(主屋)

歴史的建造物か中間的なものか非歴史的建造物かを判別し、歴史的建造物と中間的なものは屋根形状、葺材、階数、構造などを調査。

附属屋

歴史的建造物か中間的なものか非歴史的建造物かを判別し、屋根形状と構造を記録。

歴史的建造物：建築から概ね50年以上を経過している建物

中間的なもの：建築年代は新しいが、伝統的な意匠の建物

非歴史的建造物：上記以外の新しい建物

[概要]

主たる建物は、歴史的建造物191棟、中間的なもの92棟が確認でき、歴史的建造物だけでなく、伝統的な意匠を継承する新しい建物も多数あることがわかった。また、伝統的な意匠形式の附属屋が多数残り、景観に大きく寄与している。長屋門は、時代による形式の差異が顕著なようで、今後の調査研究に期待したい。

帯解地域の調査では、上街道・天理環状線沿いに町家建築が確認できた。通り単位で敷地が区画され、敷地は周辺の農家に比べて小さい。建て替えが進んでいるが、町家風に新築された住宅もあった。また、下山・山村・窪之庄等では大和棟の主屋を含めた農家住宅がよく残されている。神社を中心に集落が形成され敷地・住宅とも大きく、窪之庄では北向きの玄関の住宅が多く見られた。

主屋は昭和30～40年代に建て替えられたものも多く見られたが、長屋門をはじめ、敷地を囲うその他の附属屋が比較的多く残り、歴史ある町並みを現代に伝える上で大きな役割を担っている。

		今一・帯	今二三	下山	山村	窪之庄	田中	池田	計
調査敷地		83	160	81	57	51	77	42	551
主たる建物	歴史的建造物	29	44	33	27	24	20	14	191
	中間的なもの	7	25	16	18	4	9	13	92
	非歴史的建造物	47	89	32	12	23	48	14	265
	その他	0	2	0	0	0	0	1	3
附属屋	長屋門	0	8	9	16	14	13	18	78
	その他の門	4	15	20	15	14	9	11	88
	離れ	48	83	57	71	45	45	47	396
	納屋・その他	53	98	57	61	38	55	40	402
	土蔵	11	27	32	32	19	36	35	192

※その他とは敷地内に主たる建物を確認できなかった調査地のこと

[主屋等について]

主屋等のうち歴史的建造物と中間的なものについて、屋根形式別、階数別の棟数を下に示した。屋根形式別では、草葺（金属板葺となっているものを含む）の棟数と、そのうちの和棟の棟数も示した。

歴史的建造物191棟のうち、17棟が草葺であった。和棟は山村で5棟、窪之庄で6棟、田中1棟、下山で1棟確認できた。その他、入母屋造のものが計3棟、片側入母屋片側切妻造のものが17棟、寄棟造のものが今市一丁目・帯解本町1棟確認できた。

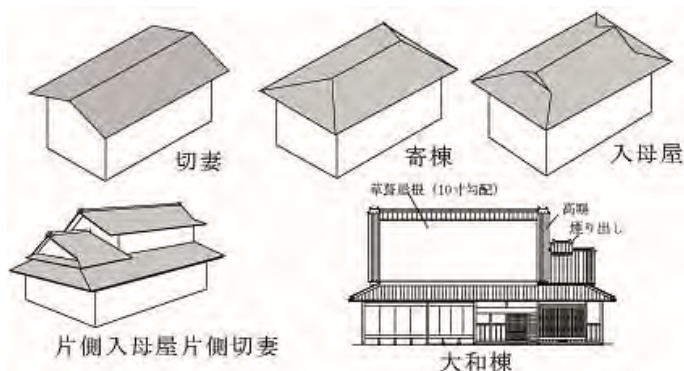
屋根形式	歴史的建造物 191棟								中間的なもの 92棟							
	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計
切妻造 (草葺) うち和棟	25 (1)	40 (2)	32 (1)1	23 (5)5	22 (7)6	18 (1)1	10	170 (17)13	5	19	6	8	3	8	8	57
入母屋造 (草葺)	1	—	—	2	—	—	—	3	1	2	4	1	1	—	—	9
片側入母屋片側切妻造 (草葺)	2	4	1	2	2	2	4	17	1	4	6	9	—	1	5	26
寄棟造 (草葺)	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—

建物階数は、歴史的建造物では平屋・つし二階が多く確認できたが、中間的な主屋からはつし二階は少なくなり、ほとんどが本二階の主屋となっている。

階数	歴史的建造物 191棟								中間的なもの 92棟							
	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計
平屋	18	26	6	5	9	5	1	70	1	4	1	1	—	1	—	8
つし二階	6	11	18	12	10	12	10	79	—	1	3	—	—	1	—	5
本二階	5	7	9	10	5	2	3	41	6	20	12	17	4	7	13	79

主たる建物の玄関部を張り出して屋根をかけるものが見られたため、屋根形式別の件数を下表にまとめた。中間的なものを中心にみられたが、山村では歴史的建造物と中間的なものの両方で、同程度確認できた。また、玄関部を張り出さずに軒の上に切妻破風が載る形式もみられた。

張出玄関屋根形式	歴史的建造物 191棟								中間的なもの 92棟							
	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計	今帯	今23	下	山	窪	田	池	計
入母屋造	1	3	3	7	2	—	2	18	3	10	10	10	1	5	10	52
切妻造、片流れ (うち張り出さないもの)	—	3 (2)	1	—	—	1	—	5 (2)	—	1	—	3 (3)	1 (1)	—	—	5 (4)

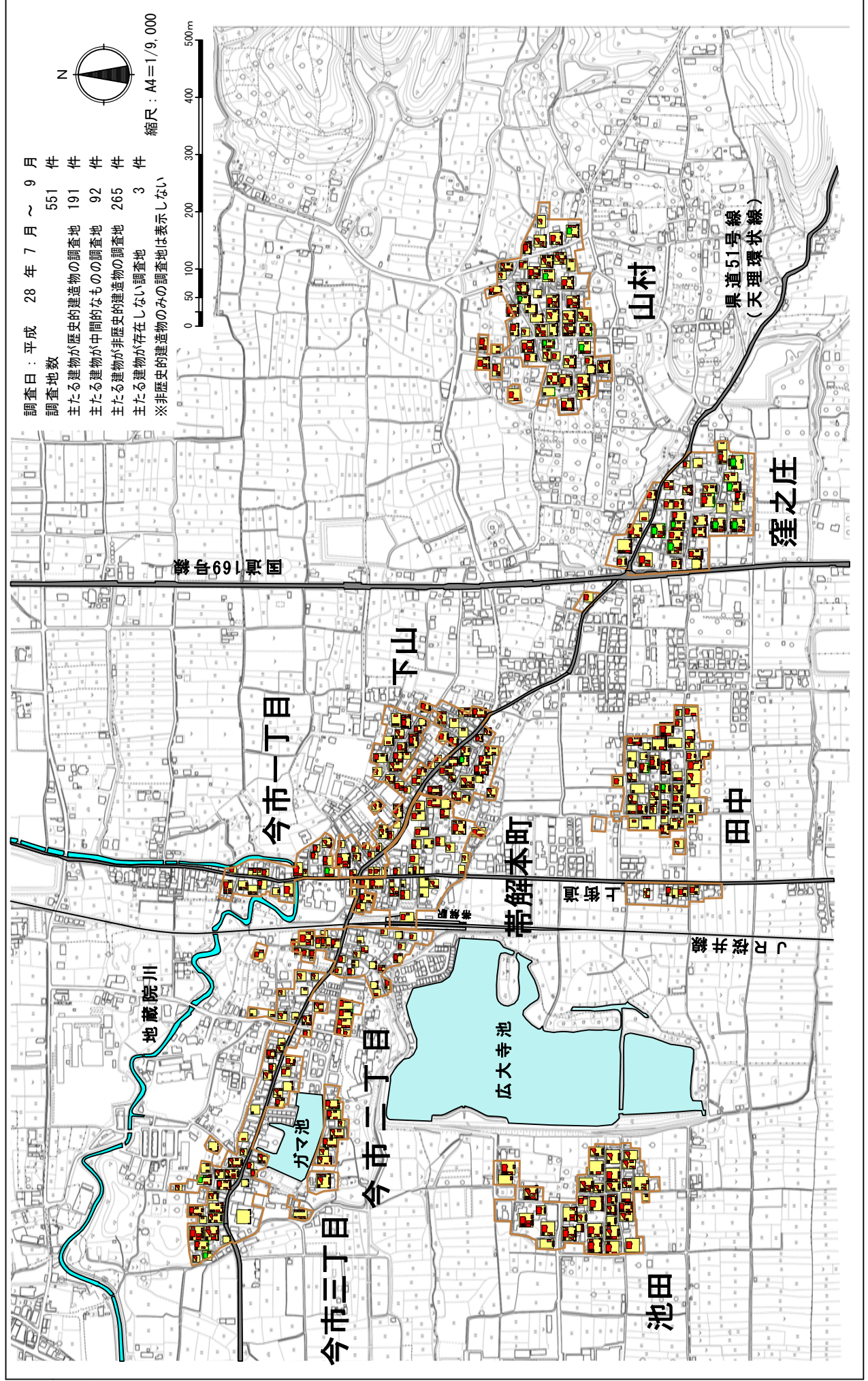


屋根形式の例



張出玄関の例

全体分布図



今市一丁目・帯解本町 1－地区の特徴・考察

調査日 平成28年 9月10日



水路を埋めた天理環状線



帯解寺付近の旧上街道(北方向)

[景観・敷地]

- ・帯解本町は、旧上街道（伊勢街道、長谷街道）と天理環状線（五ヶ谷街道）の交差地に位置し、区域には龍象寺、八坂神社がある。旧上街道の東、天理環状線の南に位置する。
- ・敷地区画は様々で、一部に離れ・蔵・土塀が残るが全体として改築が進んでいる。
- ・今市一丁目は、旧上街道沿いに宿場町、帯解寺の門前町として発展したと言われている。天理環状線の交差地を峠とする帯状の台地により、北側南側に分かれている。南側は帯解本町の西に位置する。
- ・敷地区画は、北側は北から流れてきた地蔵院川が台地に遮られ、西北に湾曲して川に挟まれた部分のため、前面街道から敷地後方の河川までひと敷地となっている。南側は南に向かって下りの街道沿いに、町家が連なっていたが、現在は改築が進んでいる。西にはJR帯解駅があり、駅前には店舗等が建築されている。
- ・調査範囲とその周辺は全て市街化調整区域である。

[主屋]

- ・今市一丁目の北側では、歴史的建造物が12件で、そのうち9件の町家が街道沿いに残る。南側は全体23件のうち、歴史的建造物が5件で町家が3件、駅舎が1件で、他は建て替えられている。
- ・帯解本町では、歴史的建造物が12件、そのうち町家は4件、町家には袖卯建2件、出格子2件を確認した。
- ・今市一丁目、帯解本町の両地区で歴史的建造物において、平入が27件、妻入が2件、階数は平屋18件、つし二階6件、本二階5件である。街道沿いで平入が多い。
- ・屋根形式は切妻が25件、片入母屋が2件・入母屋が1件、寄棟が1件であった。

[附属屋]

- ・今市一丁目では、離れは歴史的建造物が8件、中間的なもの5件、蔵は歴史的建造物を7件確認。
- ・帯解本町では、離れは歴史的建造物が7件、中間的なもの2件、蔵は歴史的建造物を4件確認。蔵の1件は、土のサイコロを積み上げて造られた米蔵である。門については2件確認した。

[その他の特徴・感想]

- ・天理環状線の半分は水路を暗渠にしており、水路がある時代は洗濯や魚取りをされていたという。
- ・当地域内には借家も存在していたが、現在は別用途や駐車場等に利用されている。
- ・帯解本町は昭和35年5月に通称名称として定められた町名であり、行政町名は現在も旧来の柴屋町である。近世、奈良と桜井を結ぶ上街道と東山中との交通上の要所で、商業の中心地として発展した歴史ある区域である。

今市一丁目・帯解本町 2ー地域の風景 町並み

上街道沿いにあり、地蔵院川、帯解寺、天理環状線との交差点、龍象寺等が町並みを特徴づける



今市一丁目・帯解本町 3-建物写真①



長屋 切妻平屋建

道に面した棟の後ろにも4棟建築されており、便所棟もある。昭和初期の建築と住民から聞き取り。



長屋 切妻平屋建

本来は長屋ではなく、建ちが低い2棟の町家か。南棟に出格子、出格子窓あり。北棟の表構えは改修。



主屋 切妻本二階

1階窓に格子を外付け。2階窓はおたふく窓。袖卯建あり。



主屋 切妻平屋建

地藏院橋の北西に位置する町家。野地は竹野地か。規模小さく古めかしい。明治期位に遡るかも。



主屋 切妻平屋建

地藏院橋の南東に位置する町家。棟中央に鍾馗瓦を置く。正面に扇型の窓2つ。

備考



主屋 切妻草葺(鉄板葺)

農家か。建物の手入れをして使っている模様。正面窓に格子を外付け。庇の中央に鍾馗瓦を置く。

今市一丁目・帯解本町 3-建物写真②



主屋 切妻本二階建

現代町家(聞き取りによると約10年前の建築)。袖卯建・出格子があるこだわりの外観。



J R 帯解駅 切妻平屋建

和風駅舎で明治31年の建物財産票あり。西側プラットホームの片流れ屋根の上屋にも大正15年の財産票。



門屋と蔵 切妻平屋建

上街道と駅間の路地に面している。蔵は本瓦葺・丸垂木・石積み基礎で、明治以前に遡るかも。



主屋 切妻つし二階建

上街道沿いの町家。袖卯建・出格子・太格子あり。壁は黒漆喰塗。屋根にむくりあり。外観意匠・保存良。



主屋 切妻本二階建

上街道にある町家。大正末期の建築(聞き取り)。2階の軒は出桁で受ける。袖卯建も残っている。



主屋 切妻つし二階建

街道筋ではない道に面する町家。出格子・袖卯建・煙出しを備える。奥には離れがある。

備考

今市一丁目・帯解本町 3-建物写真③



主屋 切妻平屋建

上街道沿い、乾物商を営んでいた町家。建ちが低い。上屋の軒は塗籠めか。瓦の意匠良。煙出しがある。



蔵と塀

町家の敷地内にある蔵と趣のある塀。



門

長屋門の一部を二階建てに建替えたものか。



主屋正面

昭和4年の建築(聞き取り)。かつてはたばこ屋であったという。窓の意匠良。丸棒格子を外付け。



蔵

サイコロ状の土を積み上げて造ってある。壁厚50cm。内部は柱がない。土を積み上げた継ぎ目が確認できる。



主屋 入母屋本二階建

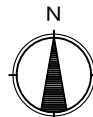
入母屋屋根を多く設け、華やかで複雑な外観である。昭和30年代頃の建築か。

備考

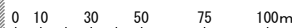
分布図

(地区名) 今市一丁目・帯解本町

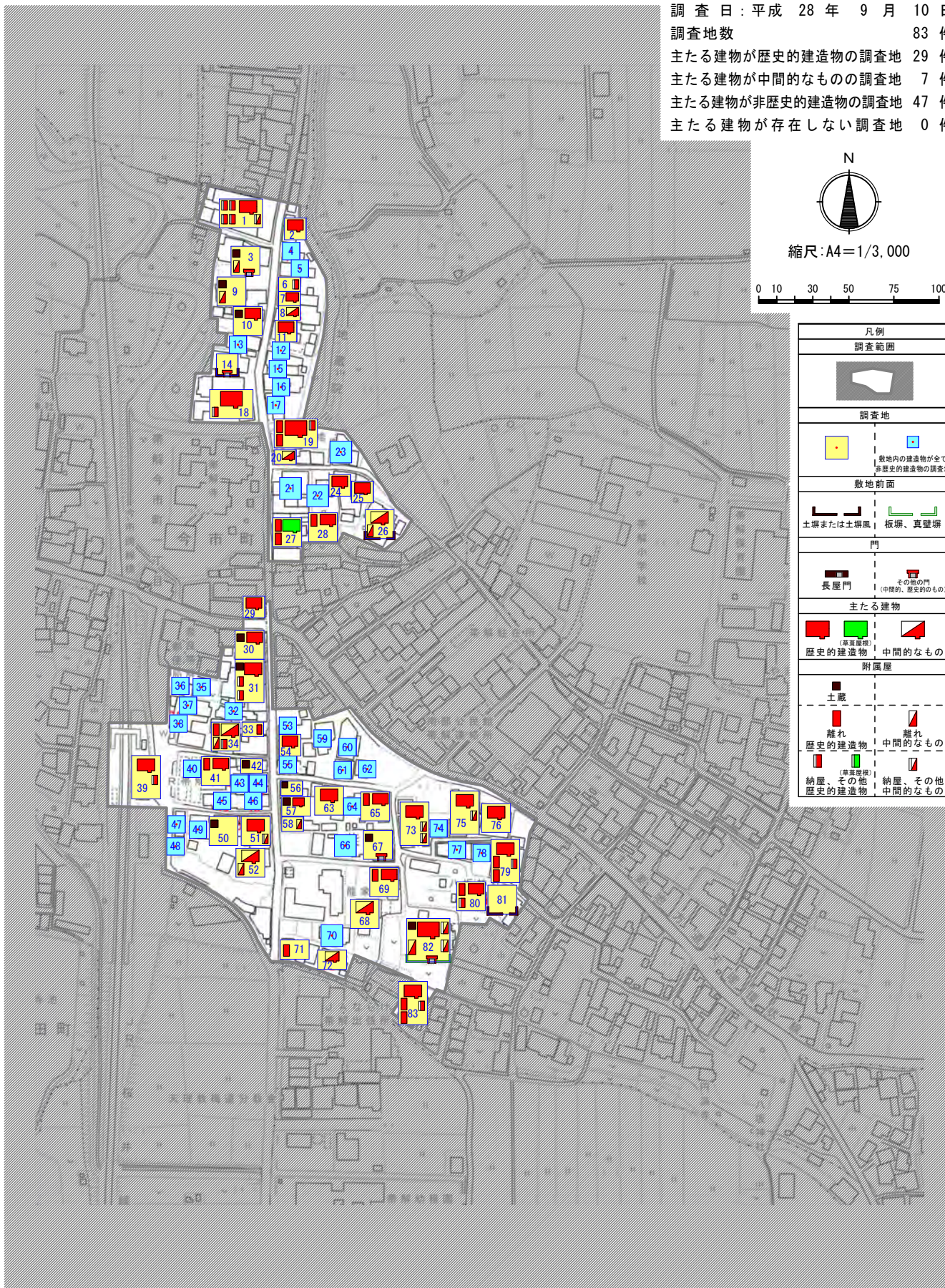
調査日：平成 28 年 9 月 10 日
 調査地数 83 件
 主たる建物が歴史的建造物の調査地 29 件
 主たる建物が中間的なものの調査地 7 件
 主たる建物が非歴史的建造物の調査地 47 件
 主たる建物が存在しない調査地 0 件



縮尺：A4=1/3,000



凡例	
調査範囲	
調査地	
敷地前面	
主たる建物	
附属屋	



今市二丁目・今市三丁目 1-地区の特徴・考察 調査日 平成28年 9月22日



春日神社



今市城の外堀が拡張された伽馬池

[景観・敷地]

- ・今市二丁目、今市三丁目は、東部山間から張り出した帯状丘陵地の尾根部分を通る天理環状線（五ヶ谷街道）に沿って広がる地区で、とJR桜井線線路の西側に位置する。街道は東から西へ下るとともに、北側から流れてきた地蔵院川は、丘陵地により西へ流れを変えている。区域には室町時代の在地武士、今市氏の屋敷が発展した今市城が中世の平城として築城された。今市城の北外堀跡は現在、遊歩道として整備されている。南側外堀は後に拡張され、伽馬池として跡をとどめている。北外堀と伽馬池の間が「城の内」、北外堀北側が外郭で、城内も堀で区切っていたとされている。
- ・区域の西端には酒造工場があり、街道を挟んだ北側には、路地が伸び奥に2、3軒の農家が立地する形態となっている。区域中央部の街道沿いで伽馬池と北外堀に挟まれる所の敷地は、基本的に街道に面している。伽馬池南側も、池畔の道沿いに敷地を構えており、南後背地まで宅地にはなっていない。春日神社付近は、街道から南北にのびる道に面して敷地区画がある形態となっている。
- ・調査範囲とその周辺は全て市街化調整区域である。

[主屋]

- ・歴史的建造物が45件でJR線西側や春日神社付近（以下区域東）に29件、中央から西側（以下区域西）に16件である。一方、中間的なものは26件で区域東に7件、区域西に19件と建て替えたものが多い。
- ・歴史的建造物45件のうち町家は9件、農家が11件、和風の民家が15件、その他和風建物は、蔵・納屋、長屋、地蔵堂などであった。

[附属屋]

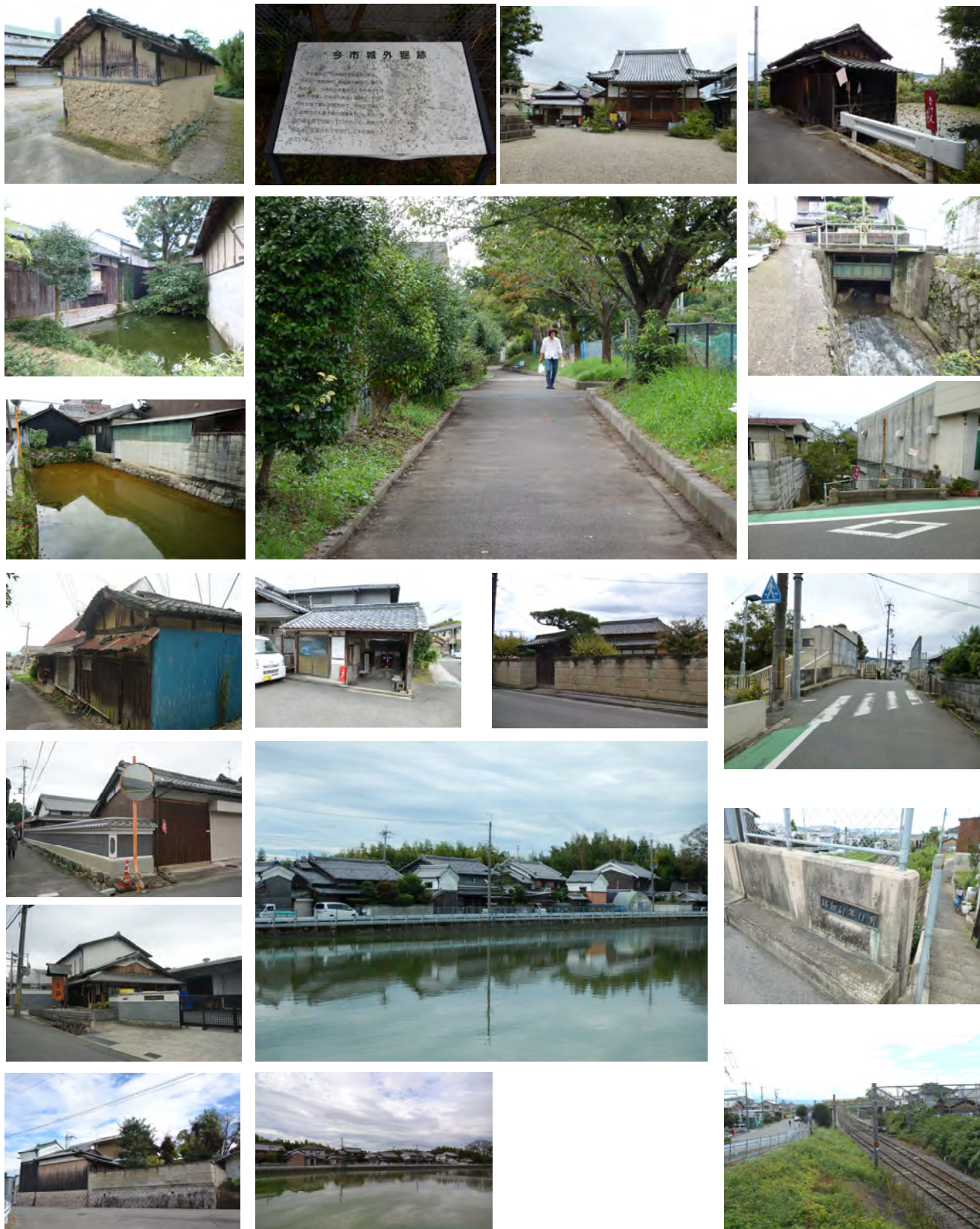
- ・離れは歴史的建造物が16件、中間的なもの33件、蔵は歴史的建造物を18件、中間的なものを9件、納屋は歴史的建造物が19件、中間的なもの15件を確認した。
- ・納屋のうち2件は、土を積み上げて造られたドテ屋である。

[その他の特徴・感想]

- ・区域内には個人敷地内に石積み護岸の堀が残され、街道と城趾、外堀跡の名残をとどめている。
- ・天理環状線の下を暗渠で流れる水路は、JR桜井線の東側から開渠となって北側に流れ落ちる景色が見られる。

今市二丁目・今市三丁目 2-地域の風景 町並み

JR桜井線の西側に位置する。今市城の南外堀を拡張したGamma池や、北外堀跡などが残る。



今市二丁目・今市三丁目 3-建物写真①



高塀の景観（主屋 切妻つし2階）
 街道から路地に入った所に建つ和風住宅。南と西側を高塀で囲み周囲の景観を形成している。農家か。



長屋門（主屋 切妻本2階建）
 東側に長屋門があり主屋南に庭がある囲造りの農家。落棟で出桁あり。東側に真壁塀があり景観を形成する。



主屋 切妻つし2階
 街道から路地に入った正面突当りに建つ。庭に塀重門あり。落棟で煙出しがある。昭和30年代の建築という。



主屋 切妻平屋建
 街道から路地に入った所に建つ。草葺を鉄板で覆う。西側にほぼ同規模の草葺鉄板覆いの納屋あり。



長屋門（主屋 切妻本2階建）
 街道沿いに長屋門がある囲造りの農家。落棟。北側離れの外に掘池と1階CB造の新しいドテ屋がある。



長屋門（主屋 切妻本2階建）
 25の東側に位置する。門の両脇を蔵と納屋とした構成。街道沿いに長屋門がある囲造りの農家。

備考

今市二丁目・今市三丁目 3-建物写真②



主屋 切妻平屋建

街道とガマ池の間に建つ出格子のある町家。裏に歴史的建造物の蔵がある。敷地後方はガマ池に面している。



主屋 切妻片入母屋平屋建

街道の南側に建つ和風住宅。大谷石造の塀、懸魚を付けた薬医門あり。近代的なすっきりした意匠。



長屋門（主屋 切妻つし2階建）

街道の北側に建つ農家。長屋門の出桁及び出桁を受ける梁を丸太とする。出格子窓あり。



長屋門及び 主屋 切妻本2階建

ガマ池の南西端に位置する。蔵以外は伝統的意匠で建替えられている。長屋門は近隣の大工による建て替え。



主屋 切妻つし2階建

ガマ池の南に位置する。昭和31年建築（聞き取り）。落棟、煙出しあり。当初はかまどがあったという。



主屋 切妻つし2階建

ガマ池の南。真壁塀、門及び塀重門がある農家。落棟。奥には離れがある。85~90年前の建築（聞き取り）。

備考

左下(聞き取り)：建てて20年頃瓦葺替（瓦がよくなかった）、木材は天理の材木店から。かまど（現存せず）4口・煉瓦造+タイル張り・右が大きな釜用、かまど後方の土間の穴に粃殻を入れて芋を貯蔵・木で蓋した。
 右下(聞き取り)：大工の5代目。主屋は祖父が建てた。塀も主屋と同じ頃建築。自分は長屋門を建てた。

今市二丁目・今市三丁目 3-建物写真③



主屋 切妻平屋建て
 街道の一つ南の道沿い、天理教教会東側に建つ農家。



主屋 切妻つし2階建
 街道の一つ南の道沿い、天理教教会東側に建つ農家。



主屋 切妻平屋建
 春日神社北東の路地沿いの長屋。奥の玄関は組物・臺股・懸魚を備えた社寺風切妻破風。



主屋 切妻平屋建
 J R 桜井線西側、街道南側の路地に面する和風住宅。建ちが低く古めかしい。



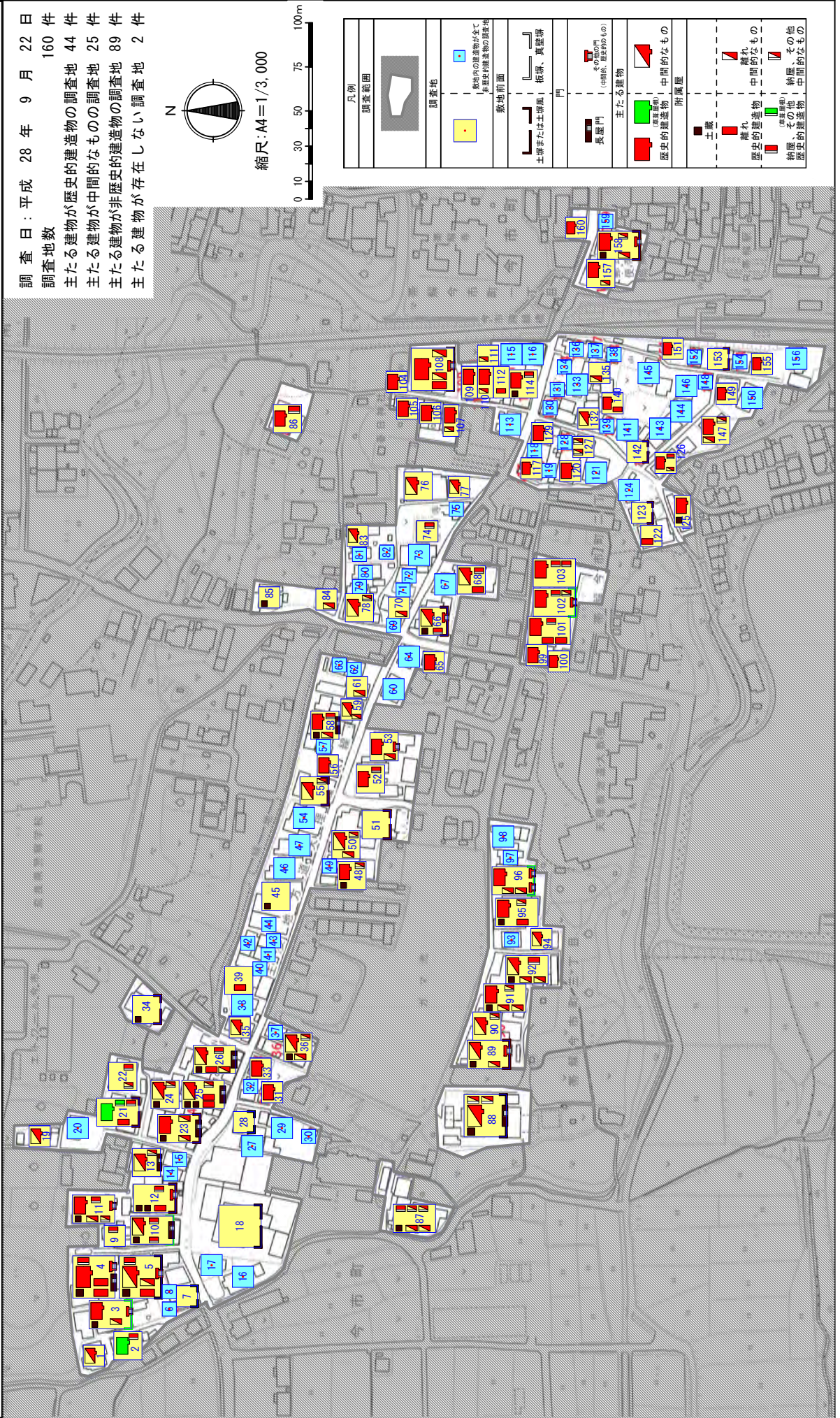
主屋 入母屋本2階建て
 J R 桜井線東側、街道沿いに建つ。むくり屋根、黒漆喰。軒先鉢巻・出桁・破風板・袖卯建を銅板張とする。特徴的で整った意匠。蔵外壁改装工事中、本瓦葺。
 備考



ドケ屋
 土壁の壁体に木造の屋根をかけた小屋。車庫として今も現役。

分布図

(地区名) 今市二丁目・今市三丁目



下山 1－地区の特徴・考察

調査日 平成28年 9月10日



西端の辻に建つ店舗付住宅



水路を暗渠にして拡幅した道路

[景観・敷地]

- ・下山は帯解寺の東に位置し、国道169号と旧上街道とを結ぶ東西の道路（県道51号天理環状線）沿いに広がる集落である。
- ・現在の天理環状線は、水路の暗渠化により幅員が倍になっている。水路の名残として、道路の緩やかな蛇行や、集落の東端に位置する下山八坂神社の鳥居前に置かれた萬歳橋などがある。
- ・主に地区西端に店舗付住宅が数件見られるが、全体としては農家住宅が集落を形成している。
- ・調査範囲全体が市街化調整区域であるため、大規模な開発行為は見られない。

[主屋]

- ・調査件数81件中、歴史的建造物が33件、中間的なものが16件確認できた。
- ・歴史的建造物のほぼすべてが棧瓦葺・切妻造・平入であり、煙出しのある建物は6件確認できた。
- ・落棟を有する歴史的建造物24件の中に大和棟の建物が1件確認できた。草葺であった部分は、その上から金属板葺とされている。
- ・つし二階建ての歴史的建造物には、袖卯建や平格子が確認できた。
- ・水路の暗渠化による道路拡幅後に、本来建物の裏側であった部分を正面に変えた建物が確認できた。

[附属屋]

- ・確認出来た附属屋175棟のうち、82棟が歴史的建造物として確認できた（内訳：蔵…29件、離れ…22件、納屋…17件、門・長屋門…9件）
- ・敷地内に建つ蔵の多くは1～2棟であるが、3棟を有するところも確認できた。
- ・主屋が建替えられていても、歴史的建造物である附属屋が現存する場合も数件確認できた。

[その他の特徴・感想]

- ・住宅以外の歴史的建造物として、置屋根・庇付平屋建の農業倉庫が確認できた。
- ・下山八坂神社に隣接する圓滿寺庚申堂には市指定文化財の算額が掲げられている。
- ・中間的な主屋には、入母屋造の屋根や入母屋造妻入の張出玄関が多い。
- ・歴史的建造物の外壁改修にはモルタルの他、正面外観にサイディングを用いている建物もあった。

下山 2－地域の風景 町並み



下山 3-建物写真①



主屋 切妻造（落棟）
 明治期の建築。虫籠窓を有するつし二階建。土塀・長屋門・塀重門を構える他、離れ・納屋・蔵を有する。

主屋 切妻造（落棟）
 街道沿いに真壁の塀を構える。明治～大正頃の建築か。虫籠窓のあるつし二階建。主屋の奥に蔵や離れが接続。



主屋 切妻造
 明治以前とみられる町家。つし二階は虫籠窓と袖卯建を有し、軒裏は塗り込められている。

主屋 切妻造（落棟）
 大正～戦前頃の建築か。つし二階は、棧を割り付けた硝子窓に平格子を入れる。落棟部に煙出しを有する。



主屋 切妻造（落棟）
 戦前の建築とみられる。つし二階は、棧を割り付けた硝子窓に平格子を入れる。煙出しなし。

主屋 切妻造（落棟）
 戦前の建築か。つし二階に虫籠窓とガラス窓を設ける。敷地は街道より低い。30年前に全面改修。煙出しなし。

備考

【主屋の階高・外観】

※つし二階を本二階に改修した可能性のある建物あり。左右の低い屋根が元のつし二階の屋根面か。

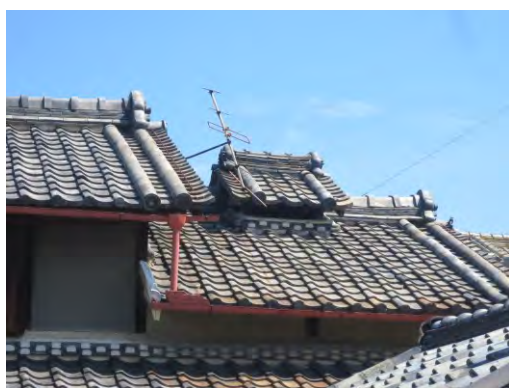


下山 3-建物写真②



主屋 切妻造（落棟）
 昭和初期の建築という。虫籠窓を有するつし二階建。落棟部に煙出しを有する。

主屋 切妻造（落棟）
 昭和30年代の建築という。つし二階建（建ちの低い本二階か）。落棟部に煙出しを有する。



煙出し
 炊事場上部に設けられた落棟部にある煙出しは、近年の屋根の葺替え等の際に撤去される場合が多い。

棧を割り付けた木製硝子窓
 大正期から昭和初期にかけての建物によくみられる窓形状。「おたふく窓」と呼ぶことがあるらしい。



看板建築
 表構えを道路面に合わせ、伝統的意匠を意識した看板建築に改修されている。下方は町家風、上方は蔵風。

塀
 敷地の南面と西面に伝統的意匠（腰板張り、大壁の黒漆喰仕上げ）の塀を構える。

備考

【屋根の形状・仕上げ】
 ※19世紀の建築と推定される大和棟の農家住宅あり（S62調査報告）。落棟あり。草葺部分は鉄板で被覆。
 ※現在と過去の航空写真を比べると、屋根を草葺から瓦葺に改めたように見える建物が数棟あり。

下山 3-建物写真③	
	
<p>長屋門 築100年程度の片側入母屋片側切妻造、出桁造、出格子窓を有する門。</p>	<p>門 長い腕木で桁を支持。</p>
	
<p>離れ 木造平屋建て、入母屋造の妻面を正面に向け、下屋を廻す。下屋を縁としているものとみられる。</p>	<p>納屋 伝統的な「ドテ屋」の土壁部分をコンクリートブロックに置き換えた構成。</p>
	
<p>蔵 乾（北西）または巽（南東）に建てられており、置屋根の蔵も数件確認された。写真は座敷付の乾蔵。</p>	<p>農業倉庫 置屋根、庇付。正面鉄扉に「下山農事実行組合農業倉庫」の表記あり。組合の紋章を漆喰彫刻で表す。</p>
<p>備考 農事実行組合：昭和7（1932）年の産業組合法改正により法人化して加入することが認められた中小農家の組合。 同22（1947）年に農業協同組合法の制定により解散した。（参考：「デジタル大辞泉」小学館）</p>	

分布図

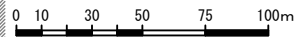
(地区名)

下山

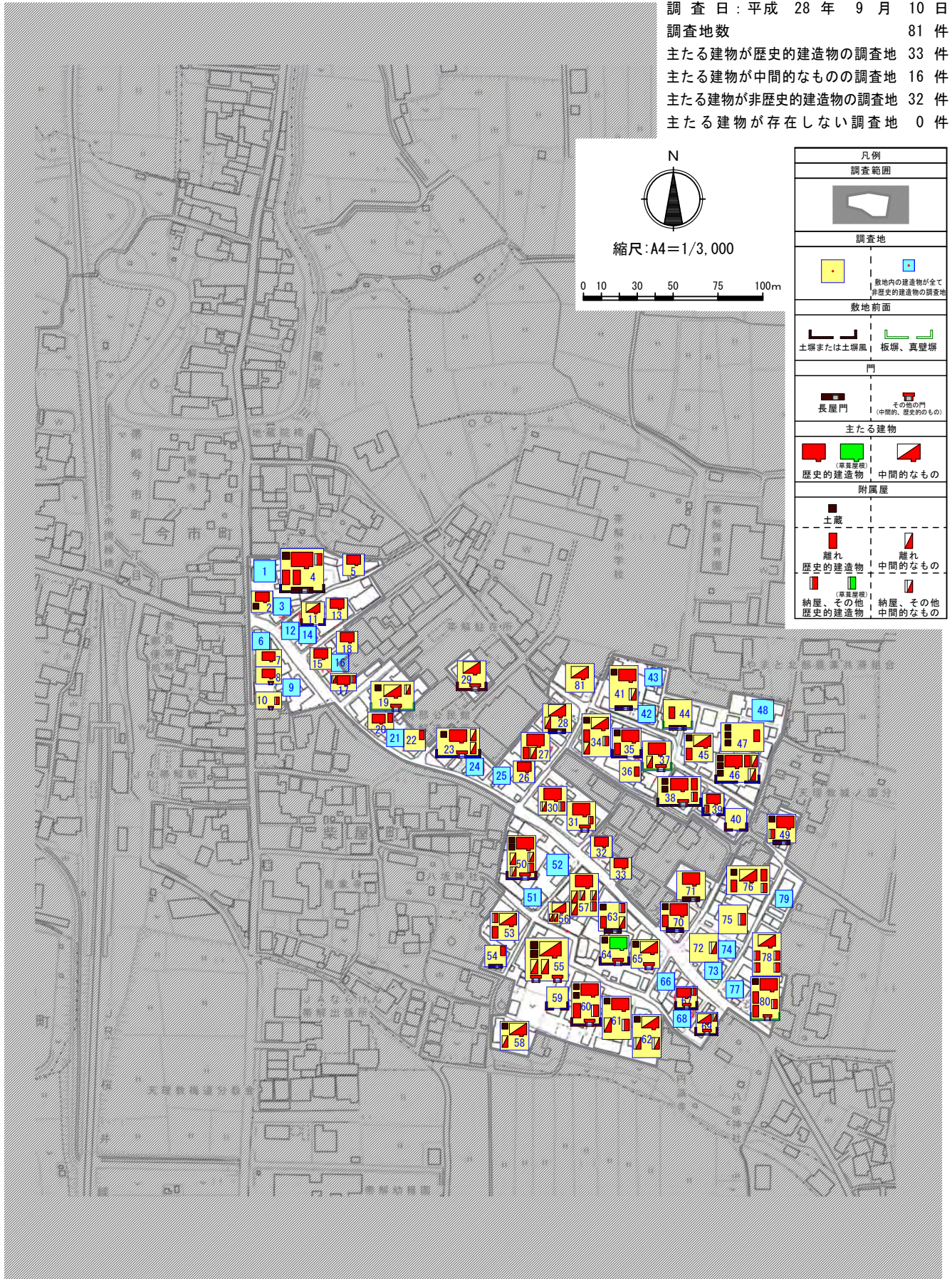
調査日：平成 28 年 9 月 10 日
 調査地数 81 件
 主たる建物が歴史的建造物の調査地 33 件
 主たる建物が中間的なものの調査地 16 件
 主たる建物が非歴史的建造物の調査地 32 件
 主たる建物が存在しない調査地 0 件



縮尺：A4=1/3,000



凡例	
調査範囲	
調査地	
	敷地内の建物が全て非歴史的建造物の調査地
敷地前面	
	土塀または土塀風
門	
	その他の門 (中間的、歴史的のもの)
主たる建物	
	(専ら歴史的) 歴史的建造物
	中間的なもの
附属屋	
	土蔵
	離れ 歴史的建造物
	(専ら歴史的) 納屋、その他歴史的建造物
	離れ 中間的なもの



山 村 1－地区の特徴・考察

調査日

平成28年7月30日



周辺の農地から地区を望む

[景観・敷地]

- ・大和高原から西にのびる、標高70m～80mの台地にできた集落。日本書紀に欽明天皇の時代に、百濟から巨知部氏が渡来し住したと記載がある。
- ・集落から離れて北東には御霊神社、山村御殿と呼ばれる圓照寺があり、北側には大川が流れている。
- ・「囲造り」の農家が多く見られ、農村としての発展が伺える。住居の周りではなく、集落の周りに田畑や果樹園が広がっている。
- ・調査範囲と周辺は、市街化調整区域であり、高樋町へ通じる市道の東側が第2種風致地区である。

[主屋等]

- ・調査した敷地が57件、歴史的建造物が27棟、中間的なものが18棟、合計45棟が確認できた。
- ・歴史的建造物の多くが切妻・平入の屋根形状で棧瓦葺。大和棟・草葺(上から金属板葺)が5棟、煙出しは3棟確認できた。
- ・27件の歴史的建造物のうち、12棟がつし二階、10棟が本二階、5棟が平屋であった。

[附属屋]

- ・長屋門（中間的なものも含む）が16棟確認でき、離れ・蔵・納屋とともに構成される囲造りの形式が多く見られる。
- ・「ドテ屋」と呼ばれる、堆肥置場が1棟確認できた。
- ・蔵は高さを抑えたものがいくつか見られた。

[その他の特徴・感想]

- ・集落内は比較的密集しており、道路は細く曲線を描くため、周辺の広々とした風景とは対照的な印象を受ける。
- ・古い家屋のほとんどは囲造りの農家で、集落周辺の田畑で農業を営む住人が多いことが伺える。農作業と住まいの関係を見て取ることができた。
- ・主屋と長屋門は、伝統的な意匠を継承して建て替えられているものが多くあり、それらにより景観が維持されていると感じた。

山 村 2－地域の風景 町並み



地区内の道は細く、曲がっている



蔵の集まる辻



伝統的な意匠が受け継がれ町並みを作っている



厚い土壁のドテ屋（右）





地区周辺の農地



御霊神社



山 村 3 - 建物写真①	
<p>主屋 切妻 高塀造の大和棟（北西から）。金属板に葺き替えられている。門は東面に構える（手前の石塀は隣家）。</p>	<p>主屋 切妻 19世紀頃の大和棟の農家。草葺に瓦葺風の金属板が葺かれている。</p>
<p>主屋 切妻 瓦葺風金属板葺の大和棟。屋敷構成は囲造り。</p>	<p>主屋 切妻 金属葺の大和棟。19世紀頃の建築。長屋門の窓はアルミサッシに改修されている。</p>
<p>主屋 切妻（落棟） 19世紀頃に建築された大和棟の農家。草葺の上に金属板が葺かれている。素朴な民家の姿をよく留める。</p>	<p>主屋 切妻（落棟） 建ちが低く煙出しもあるが昭和41年建築という。蔵は平成10年の建築で置き屋根式。（年代は聞き取り）</p>
<p>備考 地区内に残る草葺・大和棟の歴史的建造物は、すべて上から金属板が葺かれている。古い時代の農家住宅の姿がよく残されている。 なお、右上、右中、左下の建築年代は『奈良市民家調査中間報告書』（奈良市教委、昭和62年）によった。</p>	

山 村 3 - 建物写真②	
	
<p>主屋 切妻 昭和17年に建築されたという農家。つし二階に虫籠窓と木製格子窓を併用する。</p>	<p>主屋 切妻（落棟） つし二階におたふく窓が残る。屋敷構えもよく維持されている。</p>
	
<p>主屋 切妻（落棟） 本二階だがやや建ちが低い。戦後の建築か。煙出しが残る。</p>	<p>主屋 切妻（落棟） 本二階の農家。張出玄関、煙出しあり。戦後の建築か。やや現代風の正面外構も伝統的な主屋と調和する。</p>
	 
<p>主屋 切妻 つし二階の農家。つしの窓はガラス窓。昭和30年代末頃の建築か。</p>	<p>主屋 切妻 囲造りの農家。つし二階に虫籠窓が残る。出桁を支える腕木を持ち送り金物で受ける。外壁は黒漆喰。</p>
<p>備考</p>	

山 村 3 - 建物写真③



長屋門

出桁、与力窓、扉に八双金具、乳金具使用。主屋は江戸末頃の元大和棟で、20年程前瓦葺に改めたという。



門

建ちが高く豪壮な門。八双金具、乳金具使用。窓は透かし彫りの飾り付き。



門と蔵

出桁2段の門。近年の建築であるが、伝統的意匠を凝らす。異蔵は高さを抑えて建てられる。



蔵

高さが抑えられた置屋根の異蔵。丸窓が特徴的。



蔵

敷地北側に高い蔵が建ち並ぶ。屋根は置き屋根。



ドテ屋

厚い土壁で作られた小屋。堆肥を保管する場所であつたらしい。正面を開放とせず扉以外を全て土壁で囲う。

備考



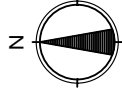
地区内の蔵にみられる左官の意匠。

分布図

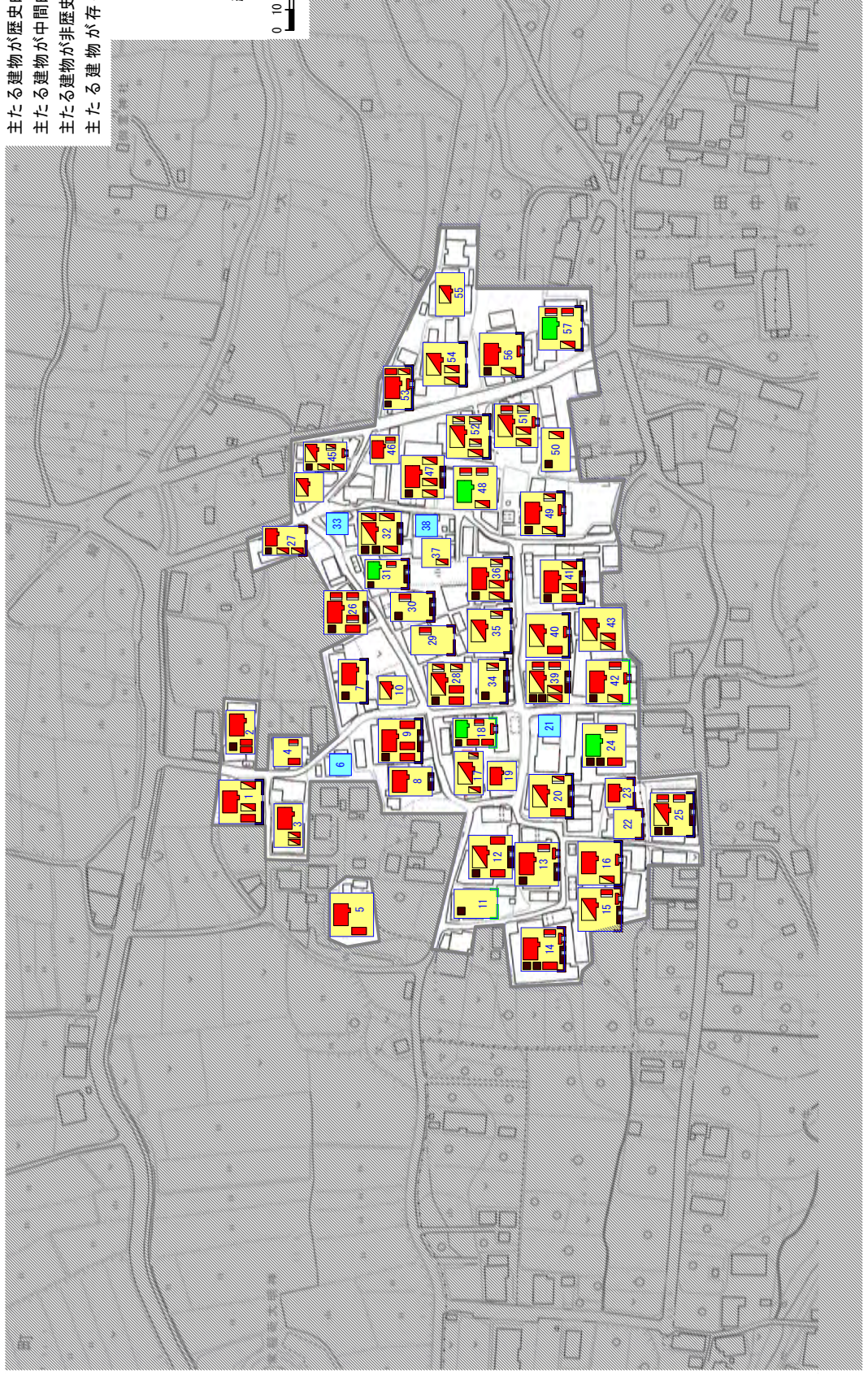
(地区名)

山村

調査日：平成28年7月30日
 調査地数
 主たる建物が歴史的建造物の調査地 27件
 主たる建物が中間的なものの調査地 18件
 主たる建物が非歴史的建造物の調査地 12件
 主たる建物が存在しない調査地 0件



縮尺：A4=1/3,000



凡例	調査範囲
調査地	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的建造物の調査地 中間的なものの調査地 非歴史的建造物の調査地
敷地前面	<ul style="list-style-type: none"> 土塀または土障風 板塀、真壁塀 門
主たる建物	<ul style="list-style-type: none"> 長屋門 その他門 (中納戸、歴史的のもの)
歴史的建造物	<ul style="list-style-type: none"> 主たる建物 中間的なもの 附属屋
中間的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 土塀 障子 歴史的建造物 歴史的建造物 (土塀) 障子 中間的なもの 中間的なもの (土塀) 障子 その他 歴史的建造物 中間的なもの

窪之庄 1-地区の特徴・考察

調査日 平成28年 7月30日



「囲造り」の民家と田園風景

[景観・敷地]

- ・中世の荘園衆徒の窪氏が居城とした地域で、八坂神社裏に空堀の面影が残されている。弥生式の石器の発見や条里制の坪名が小字名に残ることなどが、この地区の古さを物語っている。
- ・現在、窪之庄は天理街道(国道169号線)の東西に位置するが、歴史的建造物は東側に多く残されている為、今回はその地域を調査した。農業を主とした地域であるが茶の栽培、養蚕などを経て、植木屋(造園業)が多くなり現在も営まれている。地区の南端には牛舎が建っていた。
- ・「囲造り」の屋敷構えが多く、大和の農家の形態を良く残している。

[主屋]

- ・歴史的建造物が24件、中間的が4件、その他が23件であった。
- ・大和棟の主屋が多く、6件確認した。江戸期が4件、明治期1件、大正期1件。大きな屋敷構えで、附属屋を多数持つ。煙出しの付く落棟は東に設けられている。屋根は草葺きの上に鉄板を被せているが、大和棟の美しい形態を良く残している。
- ・張出玄関を持つものは少なく3件確認した。中間的な建物が少なかった。
- ・屋根の形態は切妻造がほとんどで、景観に統一感が生まれている。
- ・道に面して建つ町家風の主屋を1件、商家を1件確認できた。平格子、太格子が付き、つし二階であった。

[附属屋]

- ・長屋門は11件確認した。蔵や離れと連なっていることが多く、全て歴史的建造物である。
- ・蔵は19件確認。乾蔵が15件、巽蔵が4件。内、歴史的建造物は17件であった。
- ・納屋は門に接続又は敷地の裏側に位置し、歴史的建造物は15件確認でき、その中には敷地の外に建つドテ屋も2件含まれる。
- ・離れは歴史的よりも中間的、その他が多く、建て替えや改修が行われていることが伺えた。

[その他の特徴・感想]

- ・幹線道路沿いであるが、三方は自然に囲まれ環境にも恵まれていて、新しい住宅も建ってきているが、細い路地を歩くと長い歴史が感じられ、大和の集落の美しい風景が繰り広げられる。
- ・特に大和棟の多く残る景観は後世に伝えたい大切な遺産である。

窪之庄 2ー地域の風景 町並み



窪之庄 3-建物写真①



主屋（大和棟）
江戸末期から明治初期の建築と推定。40年前の改修時に煙出しを撤去。



長屋門・乾蔵・塀重門
長屋門は離れと納屋が付く。右下は主屋「通り庭」の天井で、簀子天井の上に土を置いた大和天井。



主屋（大和棟）・長屋門・乾蔵・中庭
広い中庭はかつては靱を干す場所であったが今は庭園となっている。明治初期の建築と推定。



主屋（大和棟）東側の落棟に煙出し
明治末期から大正期の建築と推定。写真は背面（北面）で、敷地は南に広がる。南面には長屋門を構える。



主屋(大和棟) 高塀 落棟 煙出し
元大庄屋で大きな屋敷構えである。幕末頃の建築。高塀に鳩の棟飾りが付く。大和棟の形態が良く残る。



長屋門・塀重門・納屋・離れ・乾蔵
附属屋と塀で敷地を取り囲む「囲造り」の屋敷構え。長屋門は東面し、主屋には北側からアプローチする。

備考



大和棟 幕末の建築。
西側が増改築され瓦葺の本二階建となっている。

窪之庄 3-建物写真②

	
<p>主屋 切妻造 草葺（鉄板葺） 37 江戸末期に医者であった時の建築と推定されている。造りが良く意匠的にも優れる。北側からアプローチ。</p>	<p>附属屋 37 西面の土塀、北東の門、門に続く離れと蔵、南側の水路。屋敷構えが大きく囲造りの形態をよく残している。</p>
	
<p>表構え 塀は漆喰塗で腰板張りの真壁塀 49 主屋は大和棟。江戸末期の建築と推定される。置屋根の立派な土蔵（乾）。一部なまこ壁。</p>	<p>附属屋 49 北側の表門は大戸に八双金物や乳金物が付く重厚な造り。広い敷地を附属屋で囲み、南側に納屋等が付く長屋門がある。</p>
	
<p>主屋(商家) つし二階 切妻造 18 製茶・卸。煙出し、袖卯建、虫籠窓、平格子、太格子、むくり屋根等、歴史的な意匠をよく残す。上手は入母屋造。</p>	<p>主屋(町家風) つし二階 切妻造 50 道に面する町家風の建物。平格子、太格子。明治末期の建築と推定されている。西側に蔵と離れ。</p>
<p>備考 p. 34, p. 35(左下は除く)の建物は『奈良市民家調査中間報告書』（奈良市教委、昭和62年）に掲載されている。建築年代はこの資料を基に記入した。</p>	

窪之庄 3-建物写真③



主屋 本二階 切妻造
 敷地裏(北側)の二階の窓がおたふく窓。
 両方に切妻の落棟が付く。乾蔵が建つ。



主屋 本二階 切妻造
 道路に近い位置に建つため、玄関を張り出さず、底上に千鳥破風を置く。大屋根と落棟にはむくりが付く。



ドテ屋
 屋敷の向かい側の敷地の一面に残るドテ屋。上部に稲を干すのに使った棹などが納められている。



土塀
 あちこちに残る趣きある土塀が地域の歴史を表している。



土蔵
 乾蔵が多かった。置屋根の蔵も多く見られた。



納屋 切妻造
 敷地南側に建つ納屋。自然の素材で景観が構成されており、主屋と附属屋の葺の重なりが美しい。

備考

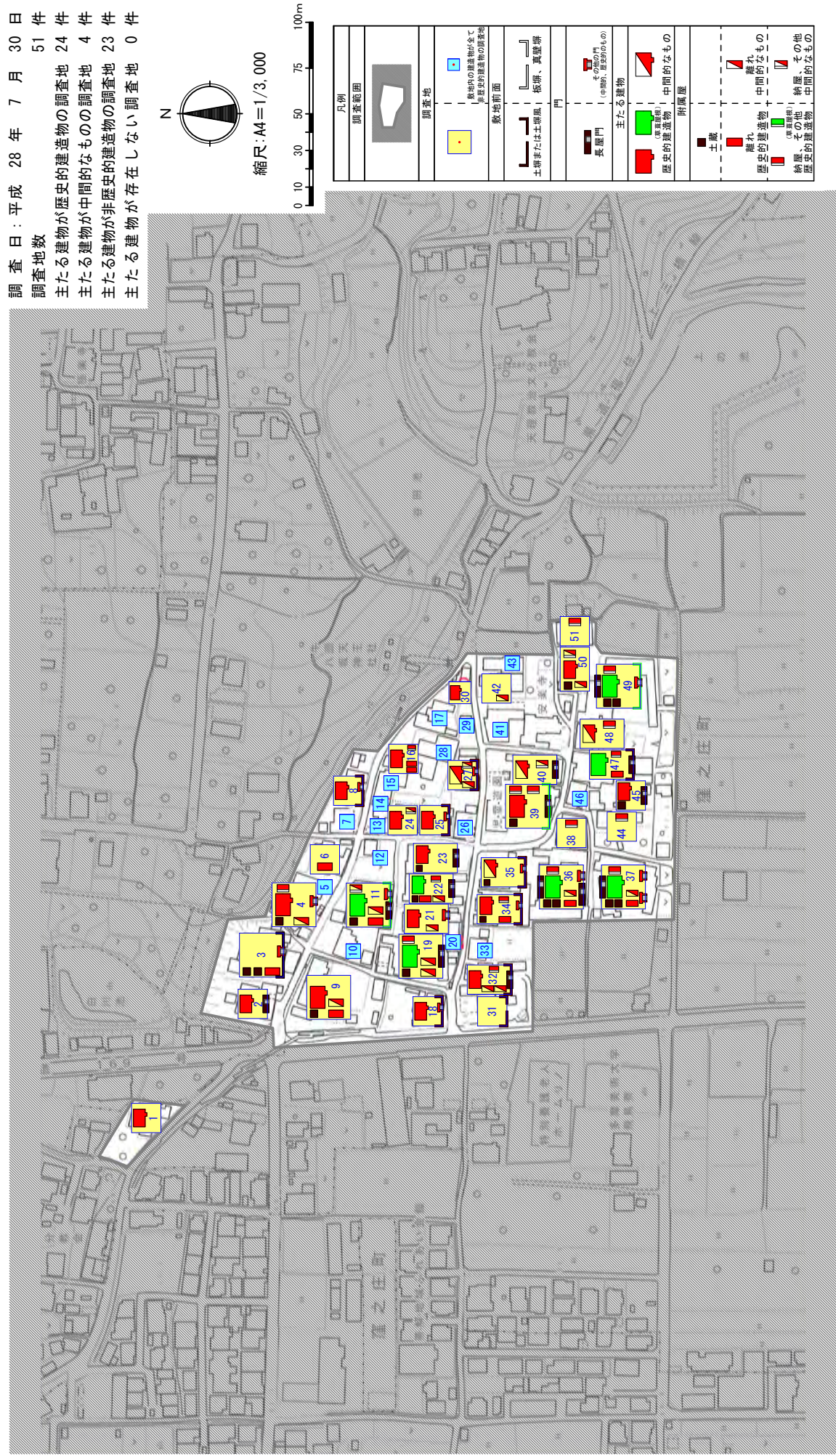


地区北側の天理街道との交差点から八坂神社前へ抜ける県道沿いはやや建て替えが進んでいる。

分布図

窪之庄

(地区名)



田 中 1－地区の特徴・考察

調査日 平成28年 8月28日



記憶の残る路地と周辺の田園風景

[景観・敷地]

- ・帯解地域の南側に位置し、西側に広大寺池がある。近世初期は窪之庄の内であったが、寛文13年(1673)までに分離したとみられる。
- ・条里制の1町を10等分した地割が明瞭に残る点の特筆される。元禄14年(1701)に大火で一村全焼した記録があり、地元ではその後の再建に伴い整備したものとも伝えるが、大変興味深い。
- ・名前の通り、農村として発展してきた。しかし農業が主産業ではなくなり、また生活様式の変化による家の建て替えが進み、歴史的な街並みは減りつつある。
- ・細い路地で仕切られた敷地内の建物は、農家住宅としての形態を残している家が多い。
- ・中心集落から1区画西に離れた長谷街道と呼ばれる道沿いには数件の町家形式の住宅が連なる。本家から分家してできたものという。

[主屋]

- ・歴史的建造物が20件、中間的な建造物が9件確認できた。
- ・そのうち住宅はすべて平入りで切妻屋根であり、1件大和棟の金属板葺がみられた。
- ・形態は殆どが農家住宅であるが、街道沿いには3件町家形式があった。

[附属屋]

- ・歴史的な形態を残す長屋門が8件、蔵が27件確認できた。複数蔵を持つ家も4件あった。
- ・主屋が建替えられていても門、離れ、蔵、納屋が、歴史的な建物として残っている家が20件以上見られ、路地沿いにその風情を残している。

[その他の特徴・感想]

- ・田園に囲まれた中の集落というのが、現在でも確認できる。集落の主屋の約3/4程が建て替えられ、時代の波を感じるが、それでも残されている建物や路地の風景等で、この町の成り立ちがうかがえる。

田 中 2－地域の風景 町並み



田 中 3－建物写真①



主屋と附属屋が構成する屋敷構え
 広い敷地に主屋、納屋、離れ、蔵が建ち並ぶ。
 主屋には煙出しもみられる。明治頃の建築か。



離れ
 敷地北面に建つ入母屋形式の離れ。奥に乾蔵が見える。



主屋
 落棟煙出しのある主屋。つし二階があり、戦前頃の建築と思われる。中に塀重門がある。



門、蔵、主屋
 主屋は屋根は葺き替えられているが、つし二階、戦前頃の建物。北側を正面とする。蔵は乾蔵。



旧主屋（背面側）
 平屋建。明治頃の建築か。煙出しの屋根に鳥ぶすまがついている。右奥に新しい主屋が建つ。



主屋
 門を入ったところにある真壁塀。囲われた中庭があるのだろう。袖卯建、虫籠窓等丁寧な仕事が見てとれる。

備考

田 中 3－建物写真②



主屋
 つし二階、虫籠窓付の建物。大正から戦前頃の建築か。しっかりとした造りが外観からも窺える。



大和棟の主屋
 門は、入口庇を檜皮葺、軒を一文字瓦葺とし、出格子窓を付けた、瀟洒な数寄屋風意匠。



上街道沿いの町家形式の住宅
 戦前頃の建築か。母屋はすべて丸太材を用いている。



上街道沿いの町家形式の住宅
 昭和初期頃の建物。平格子、吹寄親子格子、丸棒格子、棧を割り付けた硝子窓、外壁の黄色土壁等がみられる。



上街道沿いの町家形式の住宅
 明治頃の建築か。平格子、太格子、虫籠窓のバランスが美しい。



袖卯建、格子、棧を割り付けた硝子窓
 袖卯建、吹寄親子格子、丸棒格子、棧を割り付けた硝子窓の意匠。

備考

田 中 3－建物写真③



長屋門

蔵、納屋が接続する。外部の板壁のシンプルな意匠と対比して内部の意匠が面白い（右の写真）。



長屋門内部

蔵の腰壁は海鼠壁。蔵から納屋まで通している丸太の軒桁も力強くて美しい。



蔵

背の高い乾蔵。主屋や離れの背面は通りに面する。正面側には長屋門に接続した異蔵もある。



長屋門（門に続く離れ）

年を経た漆喰壁、腰板張り、出格子窓が味わい深い。



蔵

換気窓の上下統一されたデザインがかわいい。納屋が隣接する。異蔵。



鬼瓦いろいろ

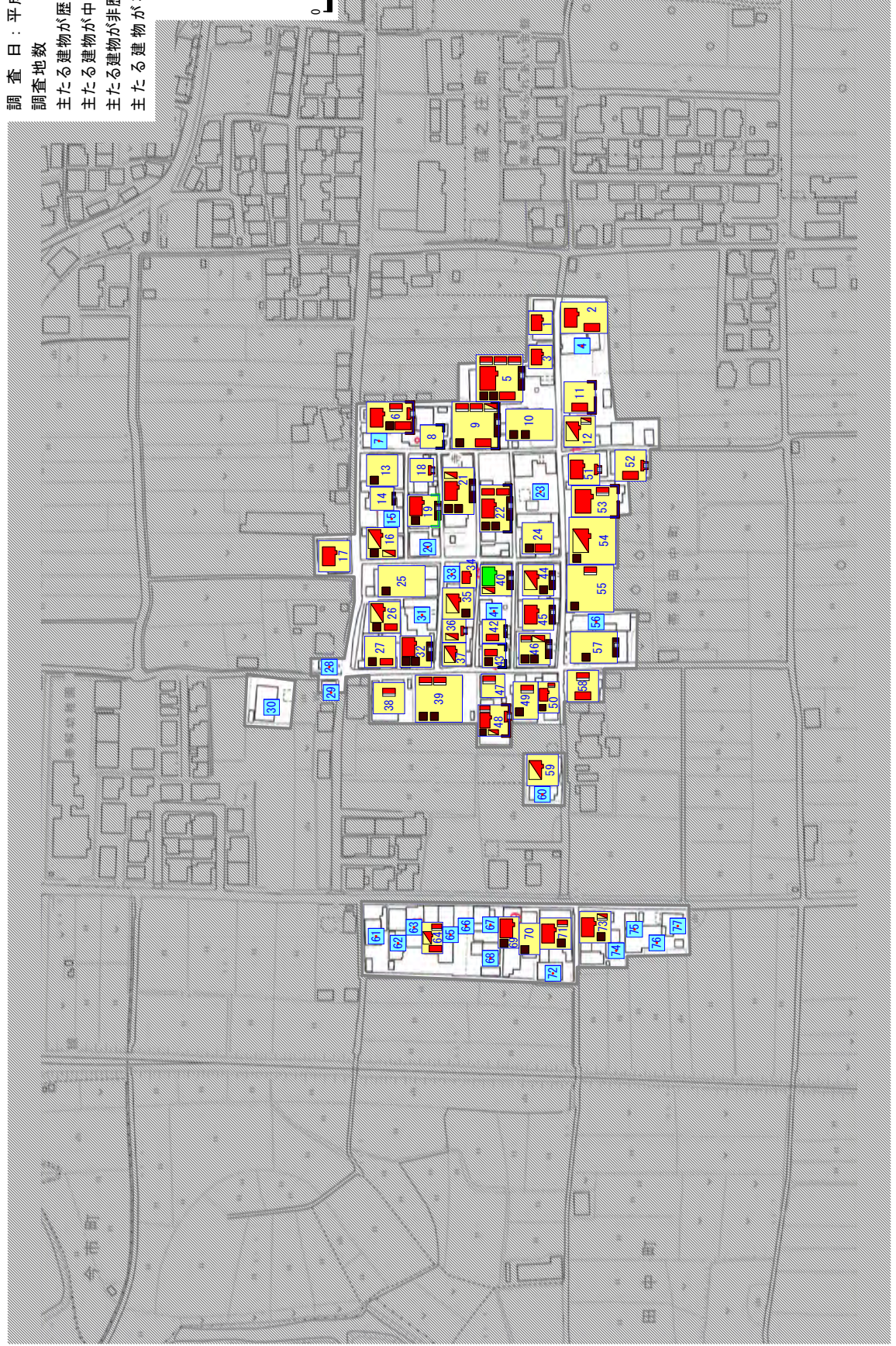
火災防止のための「水」の字、七福神の布袋さま、宝珠、波型（雲型）、鯛や鯉をあしらった瓦。

備考

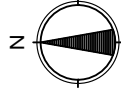
分布図

(地区名)

田中



調査日：平成28年8月28日
 調査地数 77件
 主たる建物が歴史的建造物の調査地 20件
 主たる建物が中間的なものの調査地 9件
 主たる建物が非歴史的建造物の調査地 48件
 主たる建物が存在しない調査地 0件



縮尺：A4=1/3,000



凡例	
調査範囲	
調査地	
敷地面積	
主たる建物が歴史的建造物である 非歴史的建造物の調査地	
主たる建物が中間的なもの 調査地	
主たる建物が非歴史的建造物の 調査地	
土物または土物風	
板塀、真壁塀	
門	
長屋門	
土物または土物風 （中門、土物風のもの）	
主たる建物	
歴史的建造物	
中間的なもの	
附属	
土蔵	
離れ	
歴史的建造物	
中間的なもの	
納屋、その他 歴史的建造物	
納屋、その他 中間的なもの	

池田 1-地区の特徴・考察

調査日 平成28年8月28日



池田町を廣大寺池堤防から望む



一部残っている環濠

[景観・敷地]

- ・ 廣大寺の西の田圃に発展した集落で、大和平野にしかれた条里制を今に残す、貴重な所である。
- ・ ほぼ全戸が農家住宅であり、庄屋に相当する大規模敷地の農家住宅も見られる。
- ・ 農家住宅は、主屋を中心に、長屋門、異蔵、乾蔵、納屋、離れ等で構成され、屋根付板塀や大谷石塀等で囲っている。
- ・ 長屋門は原則、東西道路に面して設けられているが、南北に抜ける道路に面するものもある。
- ・ 集落内の主屋やある敷地外の飛地に納屋等を所持している物件が見られた。
- ・ 集落のほぼ中心部に熊野神社があり、すぐ西側に集会所兼社務所がある。
- ・ 近世には集落を環濠が巡っており、現在も一部環濠が残っている。

[主屋]

- ・ 主屋はつし二階又は本二階で、切妻で東西方向に棟を持ち、棧瓦葺き平入りである。一部入母屋造りも見られる。原則、東側を落棟とし煙出しを設けるものもある。
- ・ 戸口は大戸口や木製引き違い戸とし、玄関を張り出しているものもある。正面開口部に太格子や平格子を設けるものもある。
- ・ 二階部分には虫籠窓を設けるものもあるが、多くは木製又は金属サッシとなっている。

[附属屋]

- ・ 門については、長屋門 18 件、和風 9 件となっている。建て替えられた長屋門にも、伝統的形式を踏襲しているものが多い。
- ・ 土蔵は、異蔵又は乾蔵であり、ひとつの敷地で 1 棟又は 2 棟であるがそれ以上の事例も見られる。置屋根形式も見られ、また、離れ等と接続しているものもある。ほとんどが棧瓦葺きである。
- ・ 塀は屋根付漆喰塗りで腰部分が板張りのものや、石塀（多くは大谷石）もある、土塀も見られる。

[その他の特徴・感想]

- ・ 長屋門から主屋へのアプローチ部分には整形された石敷やアイストップとなる樹木等があり、美しく設えをしているものが多かった。
- ・ 地区の中心部には、大規模な置屋根の土蔵が単独に建っている。

池 田 2－地域の風景 町並み



池 田 3 - 建物写真①



建物全景

主屋はつし二階、片入母屋造、棧瓦葺、落棟、煙出し付きである。蔵2棟。門は和風である。



主屋

棧瓦葺、つし二階、片入母屋造で、小屋根を設けるなど、複雑な屋根形式をしている。虫籠窓がある



主屋

棧瓦葺、本二階、切妻造、落棟、昭和30年代頃の建築か。



主屋

棧瓦葺、本二階、片入母屋造、落棟、張出玄関（入母屋造）付き。昭和47年建築（聞き取り）。



主屋

棧瓦葺、つし二階、切妻造、落棟、平格子、太格子、通りに面する背面に出格子窓。昭和5年建築（聞き取り）。



主屋

棧瓦葺、つし二階、切妻造、落棟、煙出し。つしには木製の格子が入る。附属屋は撤去されている。

備考

右上の建物は、地域の人からの聞き取りでは明治の建物で築140~150年というが、天保11年(1840)の祈禱札があったともいう。いずれにしても幕末から明治初期頃の建物なのであろう。

池 田 3 - 建物写真②



和風門・石塀
 現代の建築であるが、門は和風で景観に合わせたものであり、塀は大谷石である。



長屋門
 歴史的形式で、棧瓦葺、大戸口、与力窓がある。



長屋門
 切妻造、棧瓦葺、平入、出桁2段。主屋へのアプローチに井戸、樹木あり。昭和30年代以降の建築であろう。



長屋門
 片入母屋造、棧瓦葺、平入、出桁2段。昭和30年代以降の建築。主屋は昭和6年の建築（上棟御幣あり）。



長屋門から主屋へのアプローチ
 表門が東面し、奥に塀重門を構えて美しい前庭を作り、主屋に北から入る例が、池田・窪之庄に複数あり。



長屋門から主屋へのアプローチ
 長屋門には納屋が付いている。長屋門の出桁は2段。主屋までのアプローチが美しい。

備考

門は長屋門17棟、和風8棟であり、長屋門が多い。塀は石塀が14ヶ所あり、多くが大谷石である。

池 田 3 - 建物写真③



主屋の玄関まわり

昭和5年建築。玄関は木製の戸で、昭和50年代に土間部分が改修されたが、歴史を踏まえている。



長屋門、石塀（大谷石）

長屋門は築10年で、納屋、小部屋を設けている。出桁は1段、塀は大谷石である。



塀、長屋門

長屋門に続いて、屋根付・漆喰壁・腰板張の、同様の意匠の塀が連続している。



土蔵

長屋門に接続した置屋根形式の異蔵である。



土蔵

置屋根形式の乾蔵である。



土蔵

大型、庇付き、置屋根形式の土蔵。もとは庄屋の米蔵であったという。現在は農協が使用しているという。

備考

土蔵は、異蔵、乾蔵であり、長屋門等に接続しているものもよく見られる。35棟のうち、置屋根形式が14棟もある。

分布図

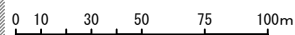
(地区名)

池田

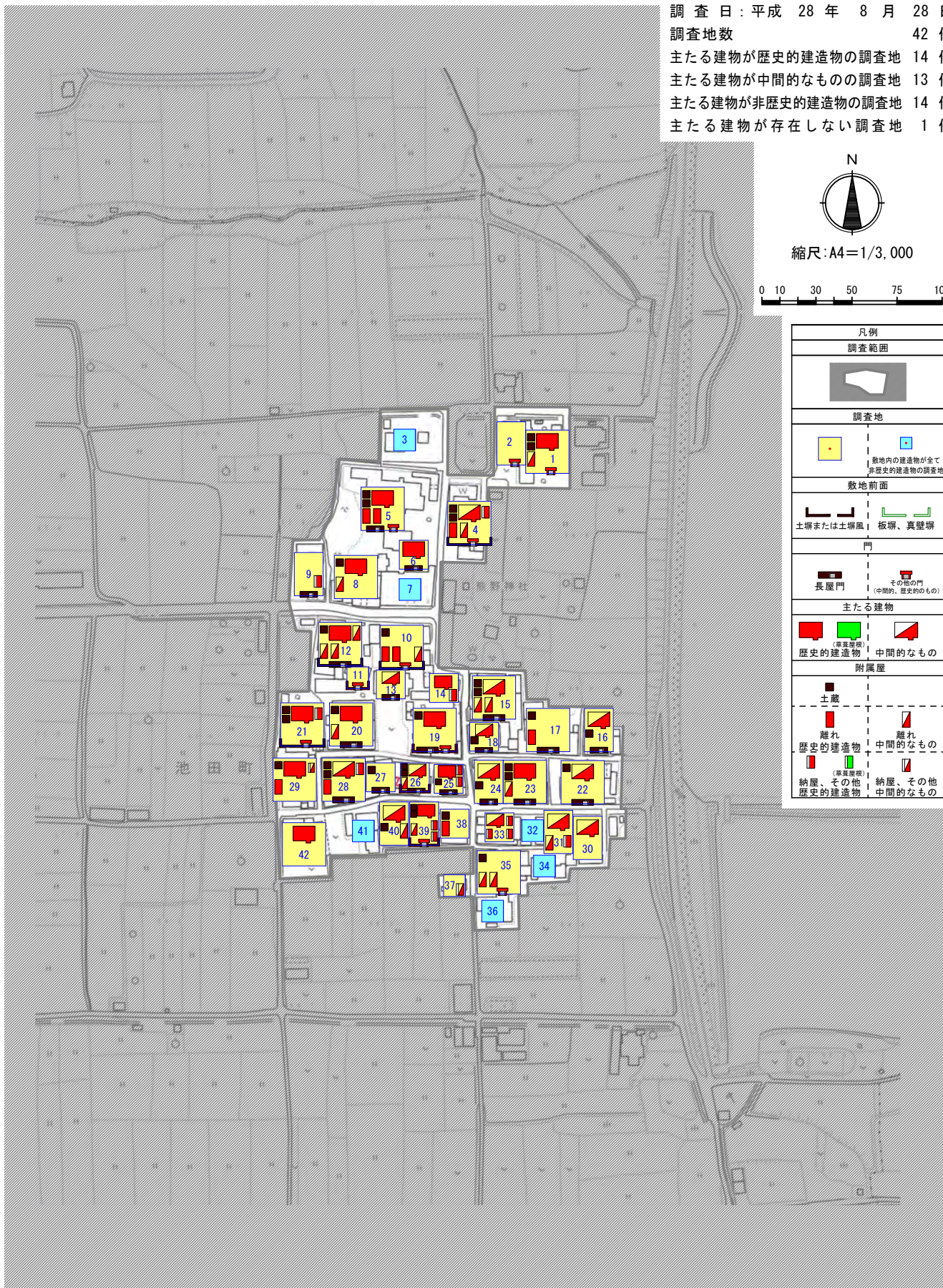
調査日：平成 28 年 8 月 28 日
 調査地数 42 件
 主たる建物が歴史的建造物の調査地 14 件
 主たる建物が中間的なものの調査地 13 件
 主たる建物が非歴史的建造物の調査地 14 件
 主たる建物が存在しない調査地 1 件



縮尺：A4=1/3,000



凡例	
調査範囲	
調査地	
	敷地内の建造物が全て 非歴史的建造物の調査地
敷地前面	
	土塙または土塙風 板塙、真壁塙
門	
	長屋門 (中間的、歴史的のもの)
	その他の門
主たる建物	
	歴史的建造物 (原基建物)
	中間的なもの
附属屋	
	土蔵
	離れ 歴史的建造物
	離れ 中間的なもの
	納屋、その他 歴史的建造物 (原基建物)
	納屋、その他 中間的なもの



報告会の概要

平成28年度・奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業

帯解地域歴史的建造物調査 報告会

今市一丁目・帯解本町、今市二丁目・三丁目、下山、山村、窪之庄、田中、池田地区

文化庁の補助事業として採択を受け、奈良県建築士会と奈良市教育委員会が協働し、主に民家を対象に歴史的建造物の調査を行っています。平成28年度は帯解地域で調査を実施し、この度得た成果の報告を行い、地域の魅力を再発見することで、まちづくり、まちおこしに繋げたいと思います。



今市一丁目のまちなみ

日時 2017年3月11日(土曜日)
 開場PM1:00 開会PM1:15～終了PM4:15
 会場 南部公民館
 住所: 〒630-8434 奈良市山町27-1

- ① 調査概要 PM1:15～1:45
- ② 調査を行ったヘリテージマネージャーによる調査報告 PM1:45～2:55
- ③ 奈良女子大学名誉教授 上野邦一氏による質問及びまとめ PM3:05～4:15

*ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産保全活用推進員）とは歴史的建造物の価値を見だし、保全、活用して良好な地域づくりに貢献できる人材



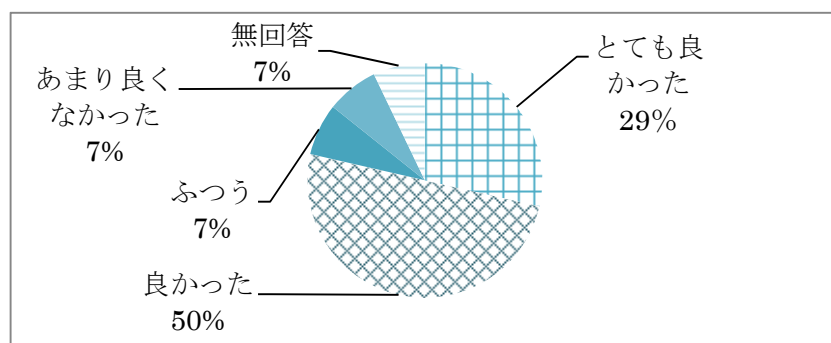
○JR桜井線「帯解駅」下車、徒歩6分
 ○JR奈良駅発近鉄奈良駅経由天理行きバスにて「下山」バス停下車、徒歩10分
 ※公共交通機関をご利用ください。

（問い合わせ先）一般社団法人奈良県建築士会事務局
 〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7奈良県建築士会館 TEL 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
 主催・（一社）奈良県建築士会 共催・奈良市教育委員会
 助成・平成28年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）



アンケート（来場者21人、回答数15人、回答率71%）

帯解地区の調査報告について



※とても良かった・良かった・ふつう・あまり良くなかった・良くなかった の5打段階で評価

アンケートでは、「各地域に結構多くの意匠が残されているのに感心した」「身近な地域の調査で興味深かった」「帯解全町の様子がわかった」「普段気にもしていない建造物に歴史的な意義があることに気付きました」等地域を再発見する意見が多かった。
 また、「個人で管理するのは限界であり、頭を痛めている」「歴史的な建物を住民とともに生かすことを考えないと思った」等今後の活用に対する意見もあった。

平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業
奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業（帯解地域）

調査員

(建築士会)	米村博昭	紀本澄男
	徳本雅代	高安和秀
	水下 力	太田幸雄
	芝口健一	森本弓子
	中尾克治	松村泰徳
	米田 巧	山本規子
	岡田伸子	大崎 修
	何左昌範	渡邊有佳子
	安田千鶴子	中川幸一
	関川卓司	鈴木猛夫
	加藤安伸	岡田則夫
(奈良市教育委員会)	山口 勇	
		高橋成美

報告書担当者

(建築士会)	太田幸雄
	紀本純男
	高安秀和
	何左昌範
	渡邊有佳子
	徳本雅代
	森本弓子
	米村博昭
(奈良市教育委員会)	山口 勇
	高橋成美

平成28年度 奈良市内における近世近代の
歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業
帯解地域歴史的建造物調査報告書
平成29年3月
発行 一般社団法人 奈良県建築士会
(住まいまちづくり委員会 奈良ヘリテージ支援センター)
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
TEL0742-30-3111
編集協力 奈良市教育委員会 文化財課

本書は、個人情報保護のため、奈良市教育委員会が報告書原本の一部を修正したものです。